

平成30年度高等学校卒業式式辞

第一一六回卒業証書授与式を挙行するにあたり、高知工科大学学長 磯部雅彦様をはじめ、多数の来賓、保護者の皆様のご臨席を賜りましたことは、誠にありがたく、心より御礼申し上げます。会場に高らかに響く、コーラスと吹奏楽のための曲目「ハレルヤ」の演奏の最中、入場した高三生に、ただいま卒業証書を授与いたしました。

卒業証書には「あなたは本校所定の課程を収めたので、これを証します」と書かれています。ただ教科の合格点をとったということだけでなく、学校生活に関わる様々なことがらに情熱を傾け、頑張った思いが、本人しか分からない文字で、そこに見えていると思います。

もう昔のことになってしまいましたが、私が土佐女子の生徒だった頃も、母校に勤めさせていただいてからも、校長先生として、本校の発展に尽くされた木戸耕作先生が、昭和六十三年度の卒業式の式辞のなかで、「卒業式は英語でコメントと言いますが、日本語にすると『始まり』という意味です。卒業式は人生の次の目的地に向かう『始まり』だと考えます。この卒業式を新たなスタート点として、出発してください」と仰いました。新しい世界に羽ばたく卒業生たちを、後押ししてくれる言葉でした。

丁度この年、昭和六十四年に、昭和天皇が崩御され、皇太子殿下が即位され

ました。年号は昭和から平成と改まりました。同じようにみなさんの卒業の年も新しい年号の元年になります。

天皇陛下は皇太子時代の昭和六十一年七月二十三日に本校を献血運動推進全国大会のためにご訪問にられました。勿論、生徒たちに親しくお声をかけられましたし、木戸校長先生自身「これは、明治三十五年開校以来初めてのことであり、多分、絶後の盛事でありましょう」と記録しておられます。玄関横の応接室に当時の写真が掛けられています。

本校は「創立以来の女子教育の上に立ち」、その指導方針は、

1. 心身共に健康でなにごとも積極的に取り組む明朗な女性を育成する
2. みずから進んで学び、広い視野と穏やかな態度をもつ聡明な女性を育成する
3. 自己の個性と創造性をいかすとともに他を尊重する愛情豊かな女性育成する
4. 身のまわりを常に清らかに保ち、公共に奉仕する女性を育成する
にあります。

私たちの周りの様々な環境は、ここ数年大いに変化し、学び方にも改善が要求され、「自分の夢や目標を持って、主体的に学ぶことのできる環境を整備する」ことを目的とした教育改革が進められています。

土佐女子は、長い歴史を積み重ね、その女子教育の根幹を変えることなく、新しい変化のある世の中にあって、自分を信じ、溢れる情報のなかでも、論理

的に考え、他とのコミュニケーションの取れる、しなやかに物事に対処できる人材を輩出することに努めています。

以前、寺田寅彦の随筆の中から、次の文章を紹介しました。「ある桜の開花を決定する因子は、遠くさかのぼれば長い冬の間から初春にかけて、一見活動の中止しているように見える植物の内部に行われていた変化の積算したものが発現するものと考えられる。(省略) 眠っているような植物の細胞の内部に、秘かにしかし確実に進行している春の準備を考えるとなんだか恐ろしいような気がする。」と。

私たちの学校生活でも、長い時間をかけていろいろな勉強を重ねて、それぞれの理解力や進度はさまざまであっても、やがて内にあつたものが形となって、周囲に繋がり、現れてくる。長年磨いたものが、聡明さや品格となって、その人に備わってくるものだと思っています。

ご卒業おめでとうございます。

平成三十一年二月二日

土佐女子中学高等学校長 荒川 操